

JICA 草の根技術協力（地域活性化特別枠）事業

I. 提案事業の概要	
1. 国名	タイ王国
2. 事業名	タイ、チョンブリ県における町ぐるみ高齢者ケア・包括プロジェクト —サンスク町をパイロット地域として
3. プロジェクト目標	タイ、チョンブリ県、サンスク町における高齢者を対象とする地域包括ケアネットワークが構築され、介護、看護の人材が育成される。
4. 対象地域	チョンブリ県サンスク町
5. 受益者層（人数規模）	サンスク町の高齢者 6,500 人、及びその家族 26,000 人
6. 活動及び期待されるアウトプット	
<p>タイ、チョンブリ県における町ぐるみ高齢者ケア・包括プロジェクト—サンスク町をパイロット地域として</p>	
7. 実施期間	2016年1月～2018年12月
8. 事業の実施体制	佐久大学教員・職員及び佐久市役所がサンスク町の職員、及びブラパ大学看護学部の教員と協力してプロジェクトの運営管理に当たる。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	学校法人佐久学園 佐久大学（長野県佐久市）
2. 対象国との関係、協力実績	1年間のプロジェクト（通称）「高齢者が支え、支えられるコミュニティのネットワークづくり」を2014年11月～2015年10月まで佐久市・佐久大学とサンスク町・ブラパ大学の協力により実施し、関係する組織間の信頼関係が構築された。

プロジェクトの達成状況と課題

成果1～5	達成状況(達成率)	次への課題
成果1 保健医療福祉委員会の設置	3ヶ月毎に開催されている (100%)	1) プロジェクト終了後の継続性 2) 審議事項：委員の人数が多い。介入組織の代表として絞るかどうか。
成果2 地域保健委員会が再編され活動を行う	地域保健委員会が組織できに機能するようになり、佐久市の研修成果が地域活動に還元された（脳トレ、寸劇、健康体操 (100%) ）	・地域活動の継続と改善
成果3 訪問・在宅ケアの企画と実施	・サンスク町在宅ケアモデル（病院⇒在宅へ）が企画され、実施された (100%)	1) 定期的な継続性 2) 内容の標準化と改善 ・課題：看護師の助手として活動するヘルスポランティアは無償のため、定期的な訪問を依頼しにくい。
成果4 お寺の境内で健康体操参加者へのケア	・継続性（仏事以外の日は毎朝実施） (100%) ・個別の健康管理に頼っている (50%)	・サンスク町から血圧計をリーダーへ貸与し、参加しているヘルスポランティア（HV）が体操前に血圧を測ることができるようになる。
成果5 帰国研修員の活動への貢献	・在宅ケア、地域活動推進・リハビリ機器の開発に貢献 ・バンセン・ヘルス・フェスティバルの開催に貢献 (100%)	・看護師、理学療法士のマンパワー不足を補うためHVを活動のサポーターとして育成。 ・看護師ら専門職は脳血管疾患 [※] ・シャル・ルターとして育成。

プロジェクトの有効性

プロジェクトの目標は、達成されたか、成果がその達成にどれだけ貢献したか。

目標：①地域包括ケアネットワークが構築され、
②介護、看護の人材が育成される。

成果1：「高齢者保健医療・介護推進委員会」が設置され、機能する。
成果2：地域保健委員会が活性化される。

・委員会メンバーは、行政、大学、病院、地域の地区長、ヘルスポランティア・リーダー約50人から成っており、3か月に一度開催されている。
・今後の課題：より広い職種、公共機関の参画を目指す。

成果2、成果5
介護・看護研修は、サンスク町、および佐久市で実施された。

・人材不足を研修による能力強化で補う
・サンスク町に於ける集団研修：
・佐久市における看護研修（春：10日～2週間）
・佐久市における介護研修（秋：10日間）

看護師、理学療法士、ヘルスポランティアの開発能力、企画力、実践力に大きく貢献。

人材育成 訪問看護・介護を可能にするための介入

看護・介護・リハビリテーション研修

佐久市での研修 **年1回招聘: 1回10人程度**

- 集団研修**
 - ・高齢者の理解
 - ・口腔ケア
 - ・介護予防(脳トレーニング・健康体操)
 - ・認知症予防(紙芝居、音楽セラピー、スクエアステップ)
 - ・日本の介護制度、ケアマネージャーの業務
- 訪問診療・看護・リハビリ・介護**
現場同行しての研修
(2名が1組で同行)
- 高齢者の健康と栄養**
・介護の基本技術



基本技術: 歩行介助 認知症理解・紙芝居を作成中
 サンスク町プロジェクト関係者の研修受け入れ
 合計延べ 55 人 (看護研修 2016 年 6 人、2017 年 13 人)
 (介護研修 2016 年 7 人、2017 年 13 人、2018 年 16 人)

人材育成 訪問看護・介護を可能にするための介入

看護・介護・リハビリテーション研修

現地(タイ)での研修 **佐久市等専門家派遣: 年2回一看護師、理学療法士ら**

- 集団研修(30~50人)**
 - ・佐久市保健医療・介護協議会の仕組み
 - ・生活習慣病の予防
 - ・介護の基礎技術
 - ・口腔ケア
 - ・褥瘡管理
- 同行訪問による現場研修**
 - ・在宅ケアにおける看護とリハの共同
 - ・脳卒中後のリハビリテーション
 - ・在宅ケアにおける薬剤管理
 - ・記録の管理
 - ・患者・家族の希望を確認

口腔ケア体操



佐久市短期専門家派遣

合計延べ 50 人 (2016 年 12 人、2017 年 19 人、2018 年 19 人)

プロジェクトのインパクト(Impact)

プロジェクトを実施したことにより、どのような直接的、間接的な正・負の影響が現れたか。

於 佐久市

現地における集団研修・個別指導の効果: 医師、看護師、保健師、理学療法士、歯科栄養士、建築士らの派遣

1. 指導することにより、個々の日本での業務を顧みる機会となった。
2. 指導することにより、佐久地域の過去の歴史的な活動を学ぶことができた。
3. 佐久市とサンスク町を比較することができ、分析力が身についた。
4. タイ、サンスク町で、近所の助け合い・互助の良い点を見直すことができた。
5. 派遣された専門家の中で自主的に申し送り、勉強会、患者台帳作成が行われるようになり、佐久プロジェクトチーム・ネットワークができています。
6. 学会で、活動報告をする機会を得ることができた。
7. 関係組織が国際協力活動について市民報告会等対外的に広報できている
8. 佐久ヘルスケア・モデルの技術移転として、新聞に掲載された。

於 サンスク町 — 帰国した研修員の開発・実践能力は目覚ましい。

1. 佐久市で研修に参加した全ての研修員が新しい知識と技術を得られた。
(例: 介護の基本技術、患者の残存機能の活かし方、介助機器の使い方、音楽セラピー、認知症ケア、口腔ケア、栄養指導等)
2. 帰国後のヘルスポランティア(HV)の**在宅訪問の回数、担当者数が増えた**。
3. 現地集団指導、佐久市での指導を得て、HVは自信を持って在宅ケアに取り組むことができるようになった。
4. 福祉機器の開発に積極的に取り組むようになった。
5. 地域で実施するプログラム開発に積極的に取り組み、実践している。
6. ケーブルTV等の取材が年に数回入り、広報している。その結果、近隣の自治体から見学者が訪れるようになり、町の関係者は活動に自信を持っている。
日本の「国際自治体協会(事務所:シンガポール)の見学研修の場となった。
7. 国内外の学会で、活動報告をする機会を得ている

【今後の予定】

- ・2018 年 12 月 事業終了。
3 年間の事業評価を実施、JICA 報告書作成中。
- ・第 2 段階としてタイサンスク町での事業継続のため、『「健康長寿」長野県佐久市の地域包括ケアを生かしたタイ、チョンブリ県サンスク町における多職種連携による高齢者ケアプロジェクト』2018 年度草の根技術協力事業の「地域活性化特別枠」に応募。3 月頃選考結果発表予定。